

秋田県内高校と大学・短大による連携のための合同意見交換会概要について

- 日 時 平成20年11月6日(木) 13:30～15:00
- 場 所 カレッジプラザ大講義室
- 概 要 次のとおり

1 開 会

(森部会長)

- ・ 今回の合同意見交換会は第2回になる。1回目は、前年度になるが今年(平成20年)2月28日に行い、いろいろな御意見をいただいた。前年度は意見交換会の開催時期が遅かったこともあり、いただいた御意見を今年度の事業に反映させることがなかなか出来なかったという反省点があった。
- ・ 今年度は、意見交換会を早めに開催することができたので、いただいた御意見や御提案を来年度の事業運営に反映させていきたいと考えている。

(カレッジプラザ・藤井)

- ・ 配布資料について説明

2 高大連携授業の実施状況について

(1) 大学コンソーシアムあきたの取り組み

(秋田大学・小川委員)

- ・ 戦略的大学連携支援事業「プロジェクト4A」について説明。

(森部会長)

- ・ 「プロジェクト4A」の中で各高校に関係があり、しかも関心事というところ、活動内容の「あきたを学ぶ」「秋田の中等教育を支援する」ところだと思う。そこで、「秋田の中等教育を支援する」の部分については、どんな内容の講座を高校側が求めているのか御意見をお伺いしたい。
- ・ また、特に「秋田で学ぼう」については高校側と一緒に行っていかなければならない部分でもある。
- ・ どんな質問でも御意見でもいいので「プロジェクト4A」について御発言いただきたい。

(能代高校・藤原教諭)

- ・ 「秋田の中等教育を支援する」に関してだが、現在も高校側が大学にお願いして出前講座を行っていただいている。この事業はそれを拡大して行うということなのか。今までの大学の出前授業と同じように、高校から依頼をして高校に来てもらい講義をしていただけるのか、それとも、高校側の依頼なしに大学側が提供してくださるのか、お尋ねしたい。

(秋田大学・小川委員)

- ・ 今は、出前授業という授業形式は考えていない。現行の高大連携授業の5回授業を7回若しくは8回にすることで、入学後に当該大学の単位認定が行える授業（単位取得予約型授業）にしていきたいと考えている。
- ・ 授業内容も大学の授業レベルと同程度で提供し、受講終了時に評価成績が達していれば、授業提供の大学へ入学した時に単位として認めるという方向を考えている。
- ・ 「秋田戦略学」についても各大学、又は、カレッジプラザに来て受講してもらい、受講終了後に単位認定を行う方向で計画を進めている。
- ・ 出前講座については、秋田大学内でも学部毎で受付をしているなど、バラバラに実施されているのが現状だ。もう少し、出前講座の情報についてまとめることができればいいとも考えている。

(森部会長)

- ・ 高大連携授業の単位認定については、同じ大学の2種類以上の授業に参加すれば、当該大学への入学時に単位として認めるということもできるのではないかと考えている。このほかにもいろいろな組み合わせで単位認定を行うことが考えられる。

(秋田大学・佐々木コーディネーター)

- ・ 「プロジェクト4A」の高校生向け授業は、大学コンソーシアムあきたで行っている高大連携授業の発展型ということで考えているので、基本的には受講を希望する高校生に会場に来ていただくというスタイルになると思う。

(森部会長)

- ・ 県南・県北地域では、秋田まで距離があってなかなか参加できない、ということがある。この距離の隔たりをどうしていくかが鍵になると思う。

(高校教育課・澤井副主幹)

- ・ 「プロジェクト4A」の実施が決まり、これまで以上に大学が強力に連携していくのではないかと期待しているが、高校が何らかの形で組織に関わっていくという形を取っていただけるのだろうか。
- ・ 今までも大学中心で連携が進んできているが、今後は高校側でも連携推進に積極的に関わっていききたいと考えている。

(秋田大学・小川委員)

- ・ 高校側からの提案も是非、受けていきたいと思う。

(森部会長)

- ・ 活動内容の5つの柱の中で2及び3の柱については高校にも参加していただきたいと思っている。

- ・ 他に意見や発言はないでしょうか。できるだけ、こちらからの一方通行的な物ごとの進め方は避けたいと考えている。

(秋田栄養短期大学・佐藤委員)

- ・ 高大連携授業についても、高校側からこういう講義をして欲しいということを書いてもらいたいと思う。もっときつく言ってしまうと高大連携授業が必要なかどうか、必要性をどう評価しているのかということだ。

(森部会長)

- ・ 去年の合同意見交換会でも申し上げたことだが、高校側からどんどん要望を出して欲しい。今まではほとんど何も要望が出てこない。大学コンソーシアムのから働きかけ高校側の意見を吸い上げるようにアクションを起こさなければならぬのかもしれない。
- ・ 来年度の意見交換会までまだ時間があるので、実際に行っていきたいと思う。

(カレッジプラザ・藤井)

- ・ 必要があれば、今回のアンケートと同じ手法で各高校に調査票をお送りし、答えてもらいたいと思う。

(秋田看護福祉大学・三田委員)

- ・ 秋田看護福祉大学の場合、県北の大館という立地もあり、科目を提供しても受講生が集まらず、授業実施がなかなか難しい状況がある。プロジェクト4Aに関してどのように関与していったらいいのか思案しているところだ。
- ・ また、県北地域の高校をどのように取り込んでいったらよいかについても、とても頭を悩ませている。

(森部会長)

- ・ 県北地区でも2つの高大連携授業の開催を計画していたが、結局、開講できず、そのうちのひとつは高校に出向いて出前授業として行った。
- ・ どこか県北の高校の要望をお伺いしてから、講義を計画したほうが良いのかとも思う。鷹巣農林ではどのようにお考えでしょうか。

(鷹巣農林高校・市川教諭)

- ・ 大館で開講していただいても、交通機関等の問題があり、どうしても距離的に遠く、移動負担感が大きい。本校は進学希望者が1割程度なので進学に対する意識が低いことも挙げられるが、地理的な移動負担が非常にネックだ。

(秋田大学・小川委員)

- ・ 秋田大学でも県北と県南にそれぞれサテライトを設けている。公開講座をサテライトを通じて行うことも考えているが、今のところは難しい。
- ・ ただ、プロジェクト4Aで計画のe-learningシステムが整い、うまくいけば、e-learningを通して、連携授業を行うことも考えている。

(森部会長)

- ・ e-learningのシステムが各大学で整えば、地理的な問題は解消するのも知れない。
- ・ 高大連携授業に関して言えば、進学志望者かそうでないかというのは、あまり重要ではないと考えている。高大連携授業では知的な好奇心を起こしてもらおうということが重要な目的であると考えていて、その後には大学進学があるのではないかと考えている。
- ・ 高校生は部活動があって高大連携授業に参加できないだろうという意見もあったが、部活動よりもこちらの方が大切ではないかと考えている。
- ・ 今後は、土曜日に開講する授業を増やしたり、日曜日の集中講義を考えるなど検討しなければならないのではないかと考えている。
- ・ プロジェクト4Aに関して、発言があった以外に御意見や御提案、御質問をお持ちの場合は、資料記載のメールアドレスにお寄せいただきたい。

(秋田公立美術工芸短期大学・平野委員)

- ・ 資料9の平成20年度高大連携授業<前期>全科目集計の資料ですが、Q4の「あなたは高大連携授業が開講されることを何で知りましたか？」の項目にインターネットが入っていない理由は何か？

(カレッジプラザ・藤井)

- ・ 大学コンソーシアムあきたのホームページにも情報は載せているが、閲覧している方が少ないのではないかと考えている。
- ・ アンケートの結果を見ても判るが、今は各高校進路指導部を通じて高校生に情報を送る方法にしている。また、会場に近い高校、例えば中央地区の高校や、県南地域開催の場合は会場に近い高校などへは、生徒一人一人にチラシが渡るように配布しているのでホームページからの申込は今までなかった。
- ・ 今後について述べると、生徒に対しての周知の方法、若しくは生徒が直接申込する方法をシステムとして、ただ今、検討している段階にある。具体的にはモバイル版のホームページを作るということである。
- ・ パソコン版のホームページではなく、高校生に対してはモバイル版の携帯から広報と申込ができるようなシステムが来年にはできているだろうという予定で今、進めている。

(秋田公立美術工芸短期大学・平野委員)

- ・ 毎月、ホームページヒット数はどれくらいか。

(カレッジプラザ・藤井)

- ・ 現在、4000件～4500件／月ぐらいだ。平成19年3月に開設以来、右肩上がり伸びてきている。

(森部会長)

- ・ 高校生のメールマガジン登録者数は？ 高校の教員の登録はあるのか？

(カレッジプラザ・藤井)

- ・ 高校生の登録者は皆無だと思う。理由は前述のとおり、高大連携は一人1枚直接配布のためだ。
- ・ ただ正確には属性の登録は必須ではないので、絶対に高校生がいらないとは言い切れないが。同様に、高校教員なのかわかるようになっていない。
- ・ 登録していただければ、開講情報は自動的に配信できるので、高校生にも高校教員にも広く活用していただければと思う。

(森部会長)

- ・ 講座への申込方法はたくさんあるようだが、社会人の方はほとんどがホームページからの申込なのか。

(カレッジプラザ・藤井)

- ・ HPからの申込は非常に多い。また、ホームページを閲覧するのは社会人の方々がほとんどではないかと思っている。
- ・ 高校生に対しては、各高校の教員にはお手を掛けているが、進路指導部を通じてペーパーで情報提供する今のスタイルが今のところ一番確実な方法と思っている。
- ・ ただ、今回の事前アンケートでは、高校教員から生徒一人一人へのチラシの配布が必要なのかという意見をいただいたので、このことについても皆さまから御意見をいただければありがたいと思う。

(森部会長)

- ・ 今の発言を聞くと、ホームページを新たに作るよりもチラシを配布した方がいいのではないかと思う。

(カレッジプラザ・藤井)

- ・ 補足だが、高校生がパソコンで情報を見るという環境が整っているのかということについてもお知らせいただければと思う。
- ・ 大学生を含めて、パソコンが無くても携帯は持っているという状況なのではないのかと推測しており、ゆえにモバイル版の計画を進めている。

(秋田公立美術工芸短期大学・平野委員)

- ・ 高校生がパソコンからいろいろなイベントや企画授業に関する情報を知ることにはあるのか。大学のホームページを見ている高校生がいるということも聞いている。大学コンソーシアムあきたのホームページへのリンクは各大学のホームページに貼っているのか？

(カレッジプラザ・藤井)

- ・ 全ての大学にリンクを設けてもらっている。

ただ、トップ画面にあるかどうかは大学によって違う。

(秋田公立美術工芸短期大学・平野委員)

- ・ 高大連携の内容についても、広報の方法についてもなのだが、対象を1～2年に絞り込むことなどを考えていかなければならないのではないかと思う。
- ・ 大学側は高校側のニーズを把握していかなければならない。その上で広報活動をしていかなければならないのではないか。

(森部会長)

- ・ とりあえず、来年からモバイル版のホームページを始めてみて、これでも申込数が伸びなければ、他のものを考えていくしかないのではないか。

(2) 秋田県教育委員会の取り組み

(秋田公立美術工芸短期大学・平野委員)

- ・ 出前講座や土曜講座など教育庁の高校生関連事業の開催日と高大連携授業の開講日の調整を行うべきではないか。開講の調整を行えば、より多くの高校生が高大連携授業に参加しやすくなるのではないかと思う。

(森部会長)

- ・ 出前講座・土曜講座・高大連携授業の情報をどこかで共有するしかないと思う。

(カレッジプラザ・藤井)

- ・ 土曜講座と高大連携授業の開講が重なっている部分が多くあるため、今回の会議では、高校教育課からいただいた資料を添付した。
- ・ 今後、プロジェクト4Aも始まり、高大連携授業の中には大学入学後に単位を認定するため7～8回の講義を増やす授業もあることを考えると、開講日程調整は本格的に行っていかなければならないと思う。だが、部活行事・学校行事もそれぞれの高校によって違うので、例えば年度始めに日程の摺り合わせは可能なかどうか、と感じている。

(森部会長)

- ・ 全国的、全県的なものはすりあわせができると思うが、各校毎に決定している行事については無理だろう。ただ、土曜講座に関しては県教委とコンソの事務局同士で調整を行ってほしいと思う。

(高校教育課・澤井副主幹)

- ・ 週休2日になり、いろいろな行事を土曜日に持ってきていることが多く、高校生も土曜日は非常に忙しい状況だ。しかし、何とか日程の摺り合わせを行っていききたい。

(森部会長)

- ・ 土曜講座参加者の学年状況を教えて欲しい。

(高校教育課・澤井副主幹)

- ・ 1～2年を対象で、約50名が参加している。

(3) 秋田大学の取り組み

(秋田大学・小川委員)

- ・ 資料7 「秋田大学と秋田市内県立高等学校との授業科目の履修に関する協定による授業提供の状況」について説明・

(森部会長)

- ・ 秋田大学のこの授業は単位認定を行っているので紹介した。プロジェクト4Aでは同様の形を考えている。これについて高校の意見を聞きたいが、今現在参加されている高校の意見はどうか？

(秋田南高校・渡部教諭)

- ・ 参加生徒人数が少なく、何か言えるという材料がない。

(4) ノースアジア大学・秋田栄養短期大学の取り組み

(ノースアジア大学・福山委員)

- ・ 資料により取組状況について説明

(秋田栄養短期大学・佐藤委員)

- ・ 資料により取組状況について説明

3 戦略的大学連携支援事業について

- (1) 大学コンソーシアムあきたの取り組みにおいて既説明のため割愛。

4 高校と大学・短大の連携に関する意見交換

(能代高校・藤原教諭)

- ・ 各大学や教育庁などので高校生向けの事業の日程がバラバラだと、情報もばらけてしまう。年度初めに調整を行っていただきたい。
- ・ 高大連携授業に関しては、秋田市以外の高校生はなかなかカレッジプラザまで足を運ばない。大館の職能短期大学校や秋田看護福祉大学などでも開催していることは高校生も知っているが、こちらも交通の便などの要因でとても通いにくく、結果、参加までに至らないことが多い。白神看護学院で行われた時は生徒も行っているの、能代地域でも授業開催を考えて欲しい。

(カレッジプラザ・藤井)

- ・ 秋田市以外で開講をとという意見は昨年にもいただいたので、今年度は大学コンソーシアムあきた構成機関以外の会場で、県南地区の横手市において高校と衛生看護学院を会場に授業を提供することとした。

- ・ しかし、衛生看護学院を借用して計画した授業への参加者はなく、もう一つの会場となった高校の生徒は参加したが、その高校以外の生徒の参加は少なく、なかなか周知ができなかったことが伺えた。
- ・ 今後、横手地域で同様に授業を計画をしたときには、横手市内の高校には生徒の参加促進をしていただけるのか不安に思うところがある。具体的に言うと、秋田県立大学から提供のあった科目「大学の英語科・英文科・外国語学部で学ぶこと、学べること」横手市の衛生看護学院を会場に設定したが、人数が集まらず、開講中止になった経緯がある。

(森部会長)

- ・ やはり、各高校の教員から生徒に参加するように促してもらうことがとても重要だと思う。会場となる高校以外のところも是非、積極的に生徒に周知をしていただきたい。今後は高校間で連絡を取っていただいて、授業に生徒を集めるようなシステムが出来ればいいとも思う。

(能代高校・藤原教諭)

- ・ 能代地域で行う際に高校が会場になる場合、高大連携授業の授業内容や開催日程など高校からの要望を聞いてもらえるのだろうか。例えば、こちらから日程を指定してお願いするというような要望の出し方だが。

(森部会長)

- ・ いままで高校から意見を聞いてテーマを決めるということが出来ていない。ぜひ、高校から要望や意見を出して欲しい。

(高校教育課・澤井副主幹)

- ・ 参加した生徒が記載したアンケート結果を見ると、高大連携授業に参加して良かったという内容の意見が数多くある。
- ・ 大学教員の方々も非常に忙しくなっている中で、高校生に対する授業を行ってくれている。高校生も忙しいだろうが、参加するように努力するべきだ。
- ・ 事前の日程調整も含め、重なる行事内容の意味合い・また高大連携授業の意味合いを良く把握していく必要がある。
- ・ 高校生にとって教員側の働きかけの影響というものがとても大きい。高校生は部活動や模試・補習などで忙しいとは思いますが、学校側で調整のできる行事に関しては折り合いつけ、生徒を高大連携授業への参加を促すべきではないか。

(秋田大学・小川委員)

- ・ 高大連携授業の単位認定について、高校生側はどれくらい必要としているのか、こちらでは把握していない。単位認定を行うことで大学入学への動機付けとなるのかどうかをお伺いしたい。

(聖園学園短期大学・小笠原委員)

- ・ 現在のシステムでの高大連携授業の単位認定には不公平感がある。中央部の参加しやすい高校生は容易に単位認定を得られる授業に参加することができ、移動負担を伴う遠隔地の高校生はで参加しづらかったために単位認定を得られる授業に参加できないという環境は如何なものかという意見が学内にある。また、選択科目としての単位認定か、必修科目としての単位認定とするのかの方向性も見えない。ただ、入試の際にはこの高大連携授業に参加していますかと質問することで受験生のモチベーションを計ることはできるのではないだろうか。

(秋田大学・小川委員)

- ・ 秋田大学では高校生向けの単位認定授業については、必修科目ではなく選択科目で開設している。

5 その他

(森部会長)

- ・ これまでの意見交換のほかに、案件や発言はありますか？

(秋田公立美術工芸短期大学・平野委員)

- ・ プロジェクト4 A事業で単位を認定することに関してだが、プロジェクト4 A参加校だけでなく、秋田県内の全高等教育機関が加わってはどうか。例えば、秋田大学提供講座を受けて単位が認定された場合、秋田県内の大学または短期大学であれば単位が認定されるというようなことだが。

(秋田大学・小川委員)

- ・ プロジェクト4 Aの事業展開には8つの連携校以外でもどんどん参加していただきたい。文科省の了承も得られると思う。
- ・ 8つの連携校の単位がそれ以外の高等教育機関でも単位認定ができるのではないかと思う。

6 閉会

(森部会長)

- ・ 今後もこの合同意見交換会は、高校と大学・短大等との連携を一層深めていくため、年に1回程度開催していきたい。
- ・ 高大連携授業に関する意見、要望等があれば、大学コンソーシアムあきたへ、プロジェクト4 Aに関する質問、意見等があれば、プロジェクト4 A推進本部へそれぞれ問い合わせいただきたい。
- ・ 以上で閉会する。